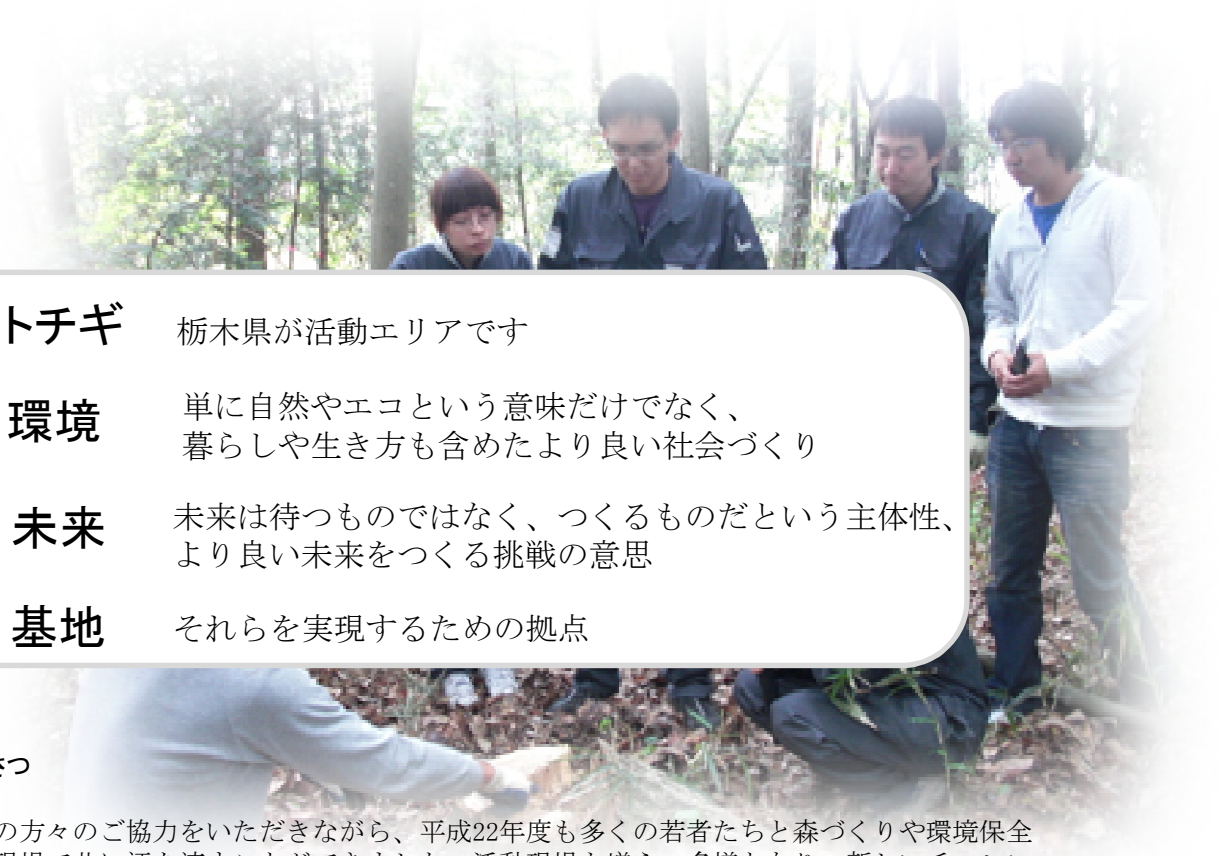
平 成 ２ ２ 年 度
事　業　報　告　書

～　環境保全活動を通じて、次代を担う若者を育む　～

特定非営利活動法人

トチギ環境未来基地

Tochigi Conservation Corps



トチギ　栃木県が活動エリアです

環境　単に自然やエコという意味だけでなく、
暮らしや生き方も含めたより良い社会づくり

未来　未来は待つものではなく、つくるものだという主体性、
より良い未来をつくる挑戦の意思

基地　それらを実現するための拠点

ごあいさつ

多くの方々のご協力をいただきながら、平成22年度も多くの若者たちと森づくりや環境保全活動の現場で共に汗を流すことができました。活動現場も増え、多様となり、新しいチャレンジを多くした一年でした。もっと力をつけなければと感じることがあった半面、若者たちの力で多くの事が成し遂げられると実感することができました。

また、トチギ環境未来基地は、平成22年10月４日、特定非営利活動法人トチギ環境未来基地となりました。法人格を得たことでこれまで以上に社会的な役割と責任をもって活動をできるようになりました。それを飛躍の力に変えていきたいと思います。

そして、年度の終わりも近付いた３月11日、東日本大震災が起こりました。震災直後から被災地の方々のことを考えてできることを模索すると同時に、私たちの活動を改めて考える機会となりました。

一つには、環境やエネルギーのこと。
便利さとリスクは表裏一体であることを私たちの社会は改めて知ることとなりました。環境やバイオマス資源、グリーンエネルギーといった言葉が、その本来的な意味を放つようになります。環境を守る、ということの意味を考えました。

一つには、暮らしや生活のこと。
トチギ環境未来基地のプログラムでは共同生活を行いながら実施するものが多くあります。いざというときに、共同生活をしたことがあるかの有無は、とても重要であると感じました。
日々の暮らしの中で、生活力をきちんと身につけて置くという、基本の重要性を考えました。

一つには、若者を育むということ。
これから長きにわたり復興活動が始まります。緊急時においても、復興時においてもチームで活動できる若者を育んでいくこと、そして今も決定的に不足している、チームをコーディネートできる若者を育んでいくこと、その意義を強く感じました。

今後とも、Conservation Corpsプログラムを中心とした、環境保全活動を通じてこれらを形にしていきたいと思います。

繰り返しになりますが、１年間多くのご支援をありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

特定非営利活動法人トチギ環境未来基地　　理事長　塚本　竜也

目次

P.4 -6　1．トチギ環境未来基地とは？

P.7　2．今年度の活動の歩み

P.8-15　3．事業報告

3－1　Tochigi Conservation Corps 事業

3－2　短期合宿ボランティア活動の企画・運営事業

3－3　地域・環境リーダーの育成事業

3－4　若者の自立支援団体との連携による人と森を育む事業

P.16-21　4．活動フィールド報告

4－1　風と緑の幼稚園

4－2　高根沢第二幼稚園

4－3　バンブー・チャレンジ☆キャンペーン

4－4　その他のボランティア活動

P.22-23　5．若者を育む

P.24　6．組織・メディア

P.25　7．財務報告

P.26　8．調査研究報告

P.27　9．スタッフ振り返り

コンサベーション　コア

Conservation Corpsとは？

このプログラムの名称にもある「Conservation Corps」とは、米国で行われている、若者がチームで、長期間、地域貢献活動に取り組むプログラムで、年間約25,000 人もの若者が参加しています。若者がより良い地域をつくるための力として活躍し、参加する若者もその活動を通じて大きく成長し、日本でも注目されています。

トチギ環境未来基地は、このConservation Corps プログラムを日本で実現するために設立されました。将来的には、このConservation Corps を全国に展開し、若者達が各地で、よりよい地域、日本をつくるための行動を起こす、その活動拠点（未来基地）として広げていきたいと願っています。また、今回のプログラムもそうですが、日本からの参加者だけでなく、アジアからの参加者も加わります。

アジアの環境保全、アジアの豊かな未来をつくる将来のリーダーを、日本の若者と切磋琢磨しながら、一緒に育んでいきたいと願っております。

1. トチギ環境未来基地、活動の背景

□ 若者を取り巻く課題と状況

次の社会を担う若者を育むことは、重要なテーマです。
しかしながら、我が国は若者をめぐる様々な問題に直面しています。当然、若者といっても、一人ひとり異なり、またおかれている状況も異なりますが、若者をめぐる問題としては、仕事に就けない若者達、ニート状態の若者達、社会的ひきこもりの増加など定量的なデータもあります。また定性的なものでもコミュニケーションが苦手、積極的に行動できないなど、若者の持つ力の低下を指摘する声もあります。

平成21年度の青少年白書によると、いわゆるニート状態の若者は、平成20年度には約64万にと推計され、働くことに困難を抱える若者が多く存在していることを表しています。また、実数を図ることは大変難しいですが、ひきこもり状態の人は全国に100万人以上いると推計されています。

自立ということを考えるときに、自立とは何か、という根本的な問いが生まれます。深く、答えの出せない問いですが、社会生活を営む上で必要とされるのは、社会的自立と経済的な自立です。特に社会的な自立に向かっていくうえでは、幼年期から青年期までの環境や多様な経験、出会いなど様々な要素が必要とされますが、近年注目されていることの一つは、自然体験活動と成長の関係です。

また、いきづまっている若者の中には、自分の存在意義を感じることができなかったり、そしてそれが自信のなさにつながってしまっているケースも多くあります。

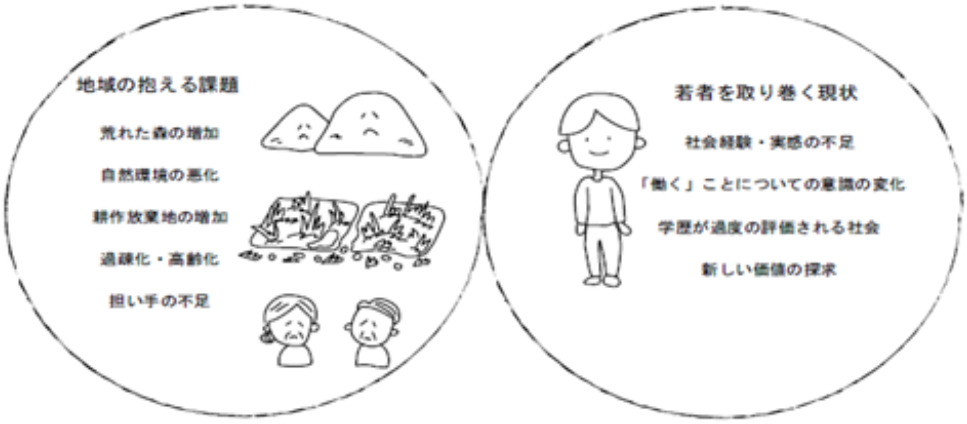
環境保全活動は、自然体験という側面と、社会（他者）に貢献する実感を得ることができるという点で、この２つの重要な要素を満たし、若者が育つフィールドとしても重要な役割を果たしうると考えています。

□ 日本の森林の現状

日本の国土面積に対する森林の割合（森林率）は、67%で、先進国では世界第2位です。森林面積は2500万haで、そのうちの4割1000万haが人工林です。特に戦後の復興に木材が不足したことから、1960年代に拡大造林政策が行われ、生長の早いスギやヒノキ等の針葉樹が植えられました。木材としての利用の他、生物多様性保全や、土砂災害防止、地球温暖化防止、保健・レクリエーション機能など、森林が持つ公益的機能は価値が高いです。

しかしながら、林業経営者の高齢化や後継者不足によって、手入れが行き届かなくなっている森林が増加しています。また林業従事者の高齢化も進み、若者の担い手の育成が大きな課題の一つとなっています。森林のみならず、自然環境の保全等、若者が活躍できる、若者の力を必要とする現場が多くあります。

□ 豊かな環境の保全と、若者の育成の両立を



若者の力を引き出し、今、新しい力が必要な環境保全活動や耕作放棄地の再生、地域活動へ若者が積極的に、長期間取り組み、社会の課題を改善していく。その過程で参加した若者が成長する、ステップアップする。そして、その若者が地域に戻ったとき、その地域を支える公共心の高いリーダーとして活躍する。社会は若者にもっと期待をし、若者はもっと力をつけ、多様な価値観を持ち、社会を考え行動していく。その循環を生み出す仕組みをつくることができれば、その地道な歩みは確実により良い社会へつながっていくでしょう。

□ 私たちの使命

私たちは、若者の社会的な力をはぐくむことと、自然環境の保全することを活動の両輪として、より良い社会をつくっていきます。

○ 若者の力で、環境問題、地域の抱える課題を解決していく

○ 社会貢献を通じ、次の地域・社会を担う若者をはぐくむ

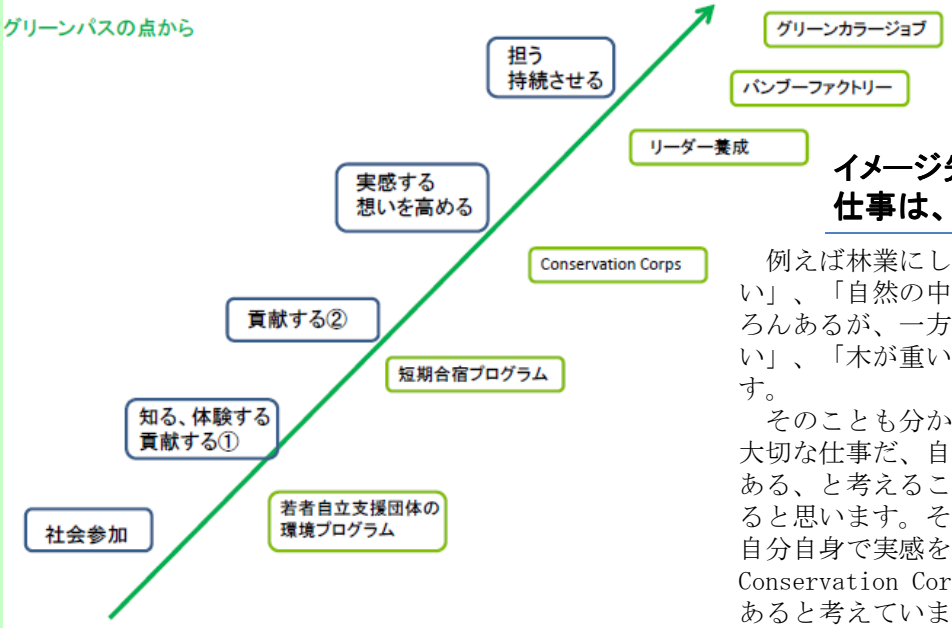
○ 地域の価値や人のつながりを再生し、市民の手による新しい社会をつくる

若者が社会的な課題に対して行動し、課題を改善していくと共に、貢献を通じて成長をつかむ。

□ 事業の位置づけ

現在、各事業を以下のように位置づけています。

各事業の位置づけ



イメージ先行の環境やグリーンの仕事は、大変な仕事が多い？！

例えば林業にしてみても、「森の中で気持ちいい」、「自然の中で癒される」という側面ももちろんあるが、一方で「蚊がいる」、「斜面がきつい」、「木が重い」というしんどい現実もあります。

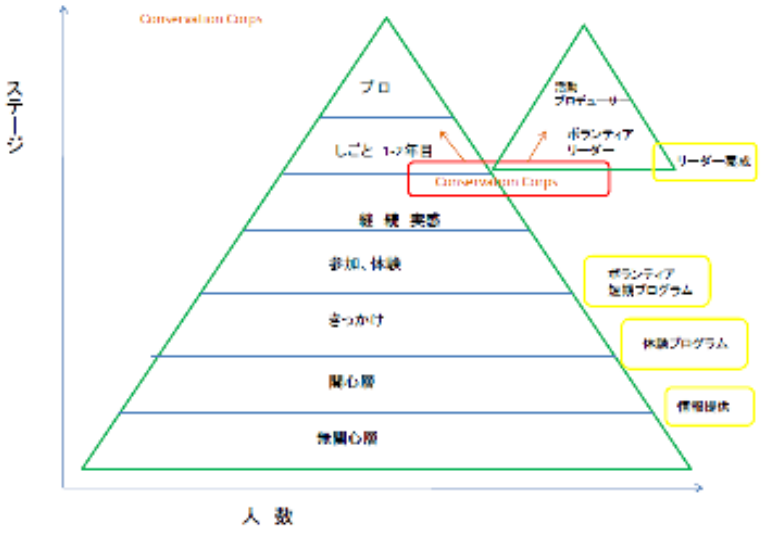
そのことも分かった上で、でもやりがいがある、大切な仕事だ、自分にもできる、やりたいことがある、と考えることができるかどうかが重要であると思います。そのためには長期間現場に入り、自分自身で実感を育むことが不可欠です。Conservation Corpsが担うべきはまさにその点であると考えています。

緑のキャリアパス（グリーンパス）をつくる！

Conservation Corps プログラムでは、初めて環境保全活動に取り組む人や、専門的に興味がある人まで、幅広く参加しています。

ニーズに応じながら、実施期間やプログラム内容の充実を図っています。今年度も多くの若者が活動に参加しています。

いろいろな入口から参加できるようなプログラムを設定し、将来的にはグリーンワーカー、グリーンの仕事を担う人材を育成できるような仕組みをつくっていきます。



2. 今年度の活動の歩み

2年目の今年度は、Conservation Corpsプログラム事業の継続実施ほか、若者自立支援団体や企業との連携プログラムの実施、竹林整備を「バンブー・チャレンジ☆」キャンペーンなどの事業も本格始動しました。

□ 3つの重点要素

事業の安定運営や、各プログラム事業の質の向上を目指して、事業を展開しました。

○NPO法人化
平成22年10月４日に法人格を取得しました。
法人となりより一層、活動の幅も広げていきました。

○3ヶ月間プログラムを年2回開催
おそらく日本初。５～７月、９～11月の３ヶ月間プログラムを年間２回実施しました。

○事業や活動フィールドの多様化
若者自立支援団体との連携によるプログラムの実施や、バンブー・チャレンジ☆キャンペーンによる竹林整備が本格始動しました。

平成22年の活動実績

のべ参加者数	694人
のべ作業日数	103日間
のべ作業時間	3，470時間

＊その他にも、
○（財）ソロプチミスト日本財団様　「国内国際奉仕」の活動支援金の寄付
○NPO法人ITアットうつのみや　様　パソコン３台寄贈

など、多くのご支援をいただきました。
ありがとうございました。

□ 各事業とフィールドの関係

	創造の森	園庭グリーン化	バンブー・チャレンジ	子どもの森
Tochigi Conservation Corps 事業	★	★	★	★
短期合宿ボランティア活動の企画・運営事業	★		★	★
地域・環境リーダーの育成事業	★	★	★	★
若者の自立支援団体との連携による人と緑を育む事業	★		★	★

★ マークは実施した作業フィールドです。

3. 事業報告

若者が環境保全活動をするカタチもさまざまです。

3－1 Tochigi Conservation Corps 事業

若者のチームによる長期間の環境保全活動、地域活動に取り組むConservation Corpsプログラムは、アメリカで年間25,000人以上の若者が各地で活動に取り組むプログラムをモデルとしています。
今年度は「３ヶ月間、１つのチームで環境保全活動に取り組む」プログラムを、２回実施いたしました。経験を重ねながら、将来的には、６ヶ月間、数チームが同時に作業を実施していけるようなプログラムを構築していくことを目標としています。自立財源（Fee For Service）拡大に向けても力を入れていきます。

□ Conservation Corps プログラム 2010 春

平成22年春のプログラムの重点目標は次の通りでした。

○ 自主財源確保による安定運営への前進
○ ３ヶ月間のプログラムの実施、質の向上

３ヶ月間として初めてとなる春のプログラムには、部分参加者も含め、８名が参加しました。日本だけでなく、韓国、台湾などアジアからの若者の参加もこのプログラムの特徴の一つです。プログラムを終えた後も、環境保全のリーダーとなること、地域活動の担い手として幅広く活動を続けていくことサポートをしていきます。

プログラム概要

期　　間
平成22年５月11日（火）　～　７月31日（土）

参　加　者
プログラム参加者８名（部分参加含む）

生　　活
共同生活。みんなで自炊。

主な活動と成果
①子どもが遊べる創造の森づくり（宇都宮市）完成
（約4000㎡）
②バンブーチャレンジ　竹林整備（那須烏山市）作業開始

運　営　体　制
トチギ環境未来基地、
NPO法人NICE（日本国際ワークキャンプセンター）